

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年12月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102518
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ荒田
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田二丁目39番1号
	(電話) 099-812-3866
自己評価作成日	令和2年11月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年12月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- H13年10月、ホーム開設。市の中心部に位置しており、国道225線近くバス、電車等の交通機関に利便性が高いのでご家族の方にも訪問しやすい環境にあり、又、閑静な住宅街である為に騒音もなく穏やかな時の中で入居者の方々は過ごされている。
- 有料老人ホーム、居宅支援事業所が併設されている為、防災訓練、折にふれ、運営推進会議等で交流する機会もあり、相互に情報交換できている。地域の子供達にぎやかに集う「古田ヶ浜公園」への散歩などで気分転換を図りながら、地域での催し等にも参加、交流しつつ、地域に開かれたホームづくりを目指しており、H29年6月に、地域住民、近隣の他福祉施設等との防災ネットワークを立ち上げ「共助」での相互の協力及び連携を強化できるように目指している。
- 入居者の方々の歩行力維持の為、下肢訓練を朝夕に実施、リハビリ訓練に取り組んでおり、協力医療機関の田上記念病院を始めとして緊急時には近医も多数あり、日頃も健康管理から医療連携を重視し、安心してホームで過ごせるように努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、鹿児島市街地の交通機関に恵まれた静かな住宅地に立地し、有料老人ホーム等が併設されている。
- ・校区コミュニティ協議会の地域行事の多くが新型コロナウイルス感染症予防の為、自粛されているが、消毒及び清掃活動に地域の一員として参加している。地域の防災連絡ネットワークに他の高齢者施設及びグループホームと共に加入し、地域の見守り隊にも事業所として登録協力する等、交流や地域貢献に取り組んでいる。
- ・管理者・職員は、トイレ誘導時は車椅子は使用せず手引き歩行を行う等、利用者の残存機能維持を図っている。玄関には一人ひとりのアルバムが置かれ、家族等との面会や状況報告で、これまでの関係が継続できるよう取り組んでいる。
- ・管理者は、外部研修受講がコロナ感染防止の為、困難な状況にあることから、外部講師によるリモート研修を活用し職員の資質向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼後に1F、2Fのスタッフで理念の唱和を行い毎日、意識付けをし実践できるよう努めている。	理念は玄関・事務所・ホールに掲示している。合同の申し送り時に唱和し確認して実践している。年度末及び自己評価作成時にケアの振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの年間行事やすこやか祭りなどの地域の行事に定期的に参加し地域との繋がりを大切に相互に交流できるよう努めている。公園などの清掃活動、総会への出席、防災連絡ネットワークの一員として活動している。	校区コミュニティ協議会に加入し、例年、地域事業に参加している。今年度はコロナ感染症予防の為、地域の消毒及び清掃活動にのみ地域の一員として参加し、地域との交流をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	積極的に地域の催しに入居者・スタッフも参加し運営推進会議では困りごとなど支援内容を説明し理解して頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議開催している。現在は新型コロナウイルス影響により地域の方の参加は控えているが開催後の議事録を町内会長や民生委員等の構成員の方にお配りし、意見や情報をもらいサービス向上に活かしている。	今年度は運営推進会議を2ヶ月に1回職員のみで実施し、結果を含めて資料等を関係者に送付している。コロナ禍の中での利用者の生活状況等を発信すると共に、電話で意見等の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への長寿あんしん相談センター職員へ参加を依頼しホームとの連携が深められるように努めている。市職員による相談派遣員を毎年依頼し意見やアドバイスなどをもらうなど協力関係を築けるよう努めている。	市及び地域包括支援センター職員とは、電話での相談や報告に出向いて連携を図っている。介護相談員派遣を依頼し協力関係を築くよう取り組んでおり、市のウェブ研修会への参加等で、情報収集に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月の職場会議の中で身体拘束廃止委員会を中心に勉強会や身体拘束に関する弊害など全スタッフで検討、評価し身体拘束の無いケアを目指している。不適切なケアについてのリモートによる研修を行いスピーチログにも留意している。	指針を基に、委員会を毎月、研修会を年3回実施している。不適切な言葉は言い換えを検討したり、センサーの必要性を毎月チェックする等、拘束しないケアに取り組んでいる。併設施設を含めた全職員の目配り等で、安全で制限のない生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場会議の中で毎月、高齢者虐待防止法について勉強会を開き、全スタッフで情報の共有に努めて環境・意識づくりを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修では権利擁護の項目を設けており全スタッフが学ぶ機会づくりを確保している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時の際には、契約の締結を実施しており、ゆっくりと分かりやすい表現を意識して説明を行い理解を得られるように心がけている。又疑問点の有無にも注意を行って対応できるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議、家族会などを通じて要望、ご意見を伺いながら事業所として柔軟に取り組めるように努めており、速やかに報告を実施している。	利用者には、日常の会話の中で要望等を聞いている。今年度は、コロナ感染症予防の為の面会制限が継続していることから家族から面会の要望が出され、利用者の状況等を個別に検討した上で、10月から面会を開始している。家族とは電話でのやり取りが多い。医療機関受診の報告などで情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各スタッフには、職場会議、朝礼などを通じて、意見を求めており、運営に活かせるように努めている。	毎月の職員会議で職員の意見を引き出せるように管理者が働きかけている。ケアや設備に関する意見の他、処遇改善についても話し合い、就業環境改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各スタッフの意識向上が図れるように、それぞれに役割を担ってもらいながら、時間内での就業を意識して、各自の意欲をそがないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内外での研修の案内、紹介を行い、各自のスキルアップに繋がれるように配慮を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の様々な研修などの案内紹介があり、又、スタッフカフェの開催など通じて、相互の情報交換もあり、交流できる機会を増やせるように取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は必ず面談しご本人、ご家族から意向、困り事や要望を伺い安心して過ごせるよう努めている。また思いや気持ちを表出できるよう表情や仕草など意識し会話をしよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族と面談を行い信頼関係を構築できるよう傾聴し気持ちに寄り添うことから始めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前からご本人、ご家族の話を傾聴することで必要とされているニーズを把握し、入居後もサービスの継続が図れ、ニーズによっては他のサービス提供の提案ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみやテーブル拭きなど出来ることはして頂き、感謝の言葉を述べるよう心掛けている。また感謝の言葉を述べる場面づくりが増やせるよう意識しケアを行い相互関係構築が図れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や小さな気づきの情報を共有し、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。毎月、「暮らしの日記」を作成し日々の様子を記録し伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方より情報を頂き、ご本人が大切にしてきた馴染みの人や場所を把握し、これまでの関係性が継続できるよう支援している。周囲の協力を得ながら外出支援なども実施している。	馴染みの場所や人を知り一人ひとりの思いを大切にしている。コロナ感染症予防の為、家族・知人の面会は個別対応であるが、電話や手紙での交流も支援している。毎月、「暮らしの日記」で状況報告を行ない、家族との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事等の際は職員も同席し会話の橋渡しができるよう努めている。利用者間の関係づくりにも配慮し食事席や役割作りなど利用者同士の関係性が良好に保てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、お見舞いや面会に行ったり、家族からも気軽に困り事や相談が受けられるような関係性が継続できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや希望を伝えやすい環境づくりや日常生活での会話を大切に言葉や仕草、表情から思いや意向を察知している。意思の疎通が困難な場合はご家族から情報を得るなどし本人中心のケアが行えるよう努めている。	日常の生活の中で話したことや仕草や行動から本人の思いを推測している。困難な場合は、家族の情報やこれまでの関わりの中から汲み取って本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人らしく暮らしていくことを支援するために個々の生活歴や馴染みの暮らし方を本人やご家族から教えてもらいケアに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを把握し職員は利用者を総合的に見つけ、できる力、分かる力を暮らしの中で発見するに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のかかわりの中で言葉や表情、態度からくみ取り暮らし方の希望に繋がれるようにしている。ご家族とは事前にアセスメント実施し、意向や希望を伺うようにし介護計画作成に反映できるよう努めている。	本人や家族からの要望と職員の意見を反映した介護計画を作成している。モニタリングを毎月実施し、1年に1回の見直しを行い、計画が現状に即したものになるように取り組んでいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、日々の暮らしの様子や本人の発した言葉、会話等も記入するようにしている。個々の記録は職員間で共有しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに対して柔軟にまた、多機能的な取り組みができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には町内会長、民生委員、長寿あんしん相談センター職員にも参加していただき、意見交換を行っている。また介護保険以外の地域資源サービスも把握するよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関での受診が継続できるよう支援している。また受診時は心身の状況報告し情報共有に努め医療機関と連絡調整が図れるよう体制づくりを行っている。医療連携体制加算取得している。	契約時に本人・家族の希望を聞き、かかりつけ医の受診を支援している。他科受診は家族対応を基本とし、情報提供書で連携を図っている。協力医療機関とのオンラインを含めた24時間医療連携体制で、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎朝のバイタルチェック、全身状態の観察を行い健康状態を把握している。看護職員と相談しながら日常の健康管理や医療相談を実施している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は介護・看護サマリーを提出し医療機関関係者と情報交換を実施し早期の退院に向けてアプローチしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合、終末期の対応についてホームで、できる事、できない事を明確にし家族会などで随時、説明行い同意、理解を得る取り組みを行っている。見取りについての研修参加への機会作りを行っている。</p>	<p>契約時に、重度化等の場合の対応について説明し、同意書ももらっている。状況の変化に応じ段階的に、自宅療養や特別養護老人ホーム等の選択肢についても説明し、家族の意向に沿って支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルを作成し全スタッフが勉強会等で定期的に学習し的確に対応できるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月1回第3金曜日「避難の日」を実施し利用者、スタッフ共にシュミレーションをしている。年2回、昼間・夜間想定、地震、消防訓練を実施しており、その際は地域住民の参加、協力を得て校区全体での訓練にも参加しており、連携を深めるように目指している。</p>	<p>年2回、併設施設と合同で昼夜想定避難訓練を実施している。2回とも消防署の立ち会いがあり、昼想定時は、水害避難の垂直避難訓練も実施している。地域住民の参加協力は、コロナ感染症予防の為依頼していない。非常用の備蓄は、3日分の水・米・乾麺・缶詰・あめ等の食料及びカセットコンロやボンベ・ライフジャケットを倉庫に準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、トイレの案内や介助が必要な場面では、さりげない言葉かけや案内に努めている。プライバシー保護について内部研修があり全職員が学ぶ機会作りの確保をしている。	研修を実施し、名前はさん付けでの呼びかけや排泄介助時のさり気ない声かけ、申し送りは事務所で行い、利用者には聞こえないようにおこない、プライバシーや誇りに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表しやすい環境作りに努め、希望を職員全体で把握、共有し自己決定できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課と流れの中で一人ひとりの体調やその日の気持ちに寄り添い、個別性を持って日々の暮らしの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身だしなみを本人の自己表現の一つとし、本人の好みに整えられるよう支援している。理美容の訪問サービスではカラーやカットなど希望に合わせたスタイルになるよう好みの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根切りや玉葱の皮むきなど調理の下ごしらえをお願いしている。入居者様と一緒に採取したプランターで、できたキュウリやナスなど野菜を献立に取り入れ、食卓を彩る工夫をしている。	職員が献立を作成し、地元の店で食材を購入している。利用者と一緒に下ごしらえやテーブル拭きをしている。誕生会の特別メニューやケーキ、行事食を提供し楽しんでいる。プランターに栽培した野菜を調理し季節の野菜を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態の工夫や本人の好みの味付けや飲み物を提供し栄養バランスの維持や水分摂取量の確保ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回、口腔ケアを行い職員は誤嚥性肺炎のリスクについて理解し、口腔ケアを実施している。食事前は口腔体操を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりの排泄パターンを把握し、一人ひとりにあった排泄支援を行っている。自尊心に配慮した言葉かけやさりげなく案内するようプライバシーにも留意している。	記録から個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。プライバシーや自尊心に配慮した声掛けや対応を行い、車椅子は使用せず、手添えで歩いてトイレへ行き、排泄の自立支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消につながるよう牛乳や身体を動かすような色んな体操の工夫など自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回を基本に入浴を実施している。一人ひとりの希望や要望に合わせて曜日や時間帯を変更したりと柔軟に対応している。浴槽にゆっくりと浸かれるよう入浴時間に配慮している。	入浴は週3回午前中であるが、希望に応じて柔軟に対応している。2人介助やシャワー浴・陰洗等も必要に応じて実施し、安全に配慮し保清に努めている。嫌がる場合、タイミングを見ての声掛けで入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活リズムを大切に、日中は適度な運動や計算問題や塗り絵など思考力を使うレク活動を取り入れ、夜間に安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変更があった際は必ず申し送りを行い受診ノートに詳しく記載し職員が内容を把握できるようにしている。内服文献は個人ごとに綴り、用法や副作用について、いつでも確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴を把握し、個々の楽しみや好みを知り、家事が得意な方には掃除機かけや下ごしらえをお願いし役割を持っていただき、歌を唄うことが楽しみな方には披露する機会作りを行い、その方にあった支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気のいい日は近くの公園に散歩に出かけたり、当月誕生者には要望を伺い、外食や買い物等の支援をしている。例年、「花見」「ソーメン流し」「コスモス見学」「ミカン狩り」に外出支援行っている。	天候が良ければ近隣の公園まで散歩をしている。コロナ感染症予防のため、年間計画の外出支援は困難な状況なので、受診を兼ねたドライブや花見・ミカン狩りに出かけて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じ、ご家族と相談をして決めている。買い物時は支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族や大切な人に、いつでも電話ができるよう、書かれた手紙やハガキのやりとりができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月1回のフラワーアレンジメントの日は季節の花を取り入れ、ご本人が生けられ各居室に飾っている。共有スペースにも季節の花を飾り季節感を感じて頂けるよう働きかけている。随時、適温調整、採光、音にも配慮して居心地良く過ごせるように支援に努めている。	リビングは、明るく十分な換気や濡れタオルでの湿度調節等、適度な室内環境になるよう工夫している。季節の生花や作品等で飾り付けを行い、利用者がそれぞれソファ等の好みの場所でくつろげるように、家具の配置を工夫する等、居心地よく暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々の利用者が安心して過ごせるようにテーブル席の配置の工夫など、気の合った利用者同士で落ち着いて過ごせる環境づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の生活習慣や住環境を参考に使い慣れた馴染みの家具や思い出の品、ご家族との写真を飾り、居心地よく過ごしていただけよう支援している。	居室には電動ベッド・戸棚・クローゼットがあり、寝具はリースである。本人の使い慣れたソファや椅子・仏壇・テレビ・ラジオ・写真・化粧道具を置き、花を飾って、個々の好みの部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見当識障害の方も不安のないよう居室やトイレには大きく表札を貼り、分かりやすいよう配慮している。ポータブルトイレの配置や移動経路など一人ひとりの状況に合わせた環境整備に努めている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない